新選組ゆかりの地

寛永13年(1636)大川の中にあった村は、洪水により現在地に移転。阿弥陀如来の堂があるため村名となる。

8月23日、新選組は大塩に集結

宇都宮城の4月23日の戦い後、幕府軍と新選組は日光に留まる。そして、山王峠、田島に入り、若松城下、清水屋に留まる。土方歳三が湯治した東山温泉の不動の湯。

新選組の土方歳三は、会津若松市七日町にあった清水屋に滞在し、東山町の天寧寺には近藤勇の墓を会津藩とともに建立。墓には、遺髪があるとされている。

4月20日から西軍の攻撃が白河城で開始される。新選組は、白河の脇本陣柳屋を本拠として戦う。5月1日から7月15日の白河城の戦いで、新選組は、郡山市湖南町福良の本陣を本拠に戦い、福良の龍伏寺で傷を癒している。

西軍の会津進攻とともに、母成峠へ向い、8月21日戦っている。斎藤一は東側の勝岩の方面を守備したが敗戦、その日は、二方向に分かれ、天寧寺へ向ったものと塩川へ向った者がいた。8月22日、斎藤一は若松の斎藤屋に宿泊。8月23には、塩川で部隊が合流。さらに大塩温泉に行き、26日箱館に向う者土方歳三と会津の残る斎藤一とに分かれる。9月1には、大鳥圭介隊とともに喜多方市山都町小布瀬に到着し、翌日同町の陣ケ峰で戦い、3日と4日は同町の長窪で戦うが敗戦。3日には、神指城の如来堂から衝鋒隊が北方の小荒井へ応援に向う。新選組は敗戦したことから、衝鋒隊の基地があった如来堂へ向い、9月5日、霧の中、大川を渡ってきた西軍に囲まれ、神指城の如来堂で13人が戦う。戦死者はいなかった。斎藤一(山口次郎・一ノ瀬伝八)はこの時降伏し、他に捕まった者は高田藩に送られ、逃げた者は南会津の田島へ行った。名が分かるのは、池田七三郎、河井鉄五郎、清水卯吉、志村武蔵、久米部正親、吉田俊太郎。

昭和38年の神指城跡

9月5日、神指城の如来堂で戦う

秋元原

斎藤一が8/22泊まった斎藤屋跡

天寧寺にある近藤勇の墓